Passion for Innovation.
Compassion for Patients.™

Daiichi-Sankyo

がん治療で「世界トップ5」へ
～第一三共の挑戦～

第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 CEO
奥澤　宏幸

2026年9月29日

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

【問題①】

第一三共株式会社 って、

どんな会社か知っていますか？

実は、皆様の身近なところで健康を支えている会社です

コーポレートスローガン

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。
Passion for Innovation. Compassion for Patients.®

設立

2005年9月

三共と第一製薬の経営統合により設立

事業内容

**医薬品の研究開発
製造、販売等**

連結社員数

20,171名

自社事業拠点

32カ国・地域

グローバル主要製品

抗悪性腫瘍剤
エンハーツ®

抗凝固剤
リクシアナ®

主要研究開発拠点



**品川
研究開発
センター**

出典：2025年度有価証券報告書（2026年6月19日提出／同8月28日訂正）、当社ウェブサイト

身近な病気から「がん」まで、長年にわたり患者さんを支えてきました

1899年 胃もたれ



消化酵素剤
タカヂアスターゼ®

1986年 解熱・痛み



鎮痛・抗炎症・解熱剤
ロキソニン®錠
（ロキソプロフェン）

1993年 感染症



広範囲経口抗菌製剤
クラビット®
（レボフロキサシン）

2002年 高血圧



高血圧治療剤
オルメテック®
（オルメサルタン）

2008年 筋肉痛・腫れ



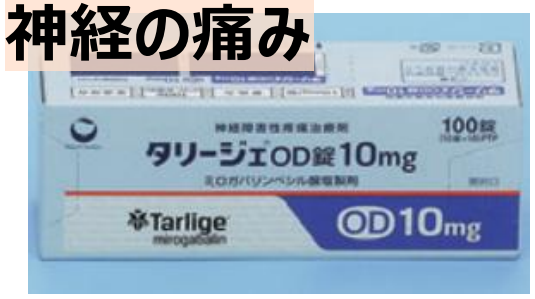
経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤
ロキソニン®テープ
（ロキソプロフェン）

2011年 心房細動



抗凝固剤
リクシアナ®
（エドキサバン）

2019年 神経の痛み



神経障害性疼痛剤
タリージェ®
（ミロガバリン）

2020年 がん



抗悪性腫瘍剤
エンハーツ®
（トラスツズマブ デルクステカン）

2024年 ワクチン



COVID-19ワクチン
ダイチロナ®

2026年 がん



抗悪性腫瘍剤
ダトロウェイ®
（ダトポタマブ デルクステカン）

【問題②】

第一三共が成長し続けるために、
何に力を入れていると思いますか？

【答え】主にがん領域の研究開発です

日本発→世界中の患者さんへ



研究開発（4拠点）

- 品川RDセンター（東京）
- 葛西RDセンター（東京）
- 館林バイオファーマシューティカルセンター（群馬）
- 平塚製薬技術センター（神奈川）

生産（４拠点）

- 小名浜工場（福島）
- 館林工場（群馬）
- 平塚工場（神奈川）
- 小田原工場（神奈川）

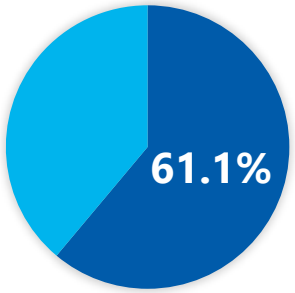
なぜ、当社はがん領域に注力するのか

多くの患者さんが、新たな治療選択肢を必要としている

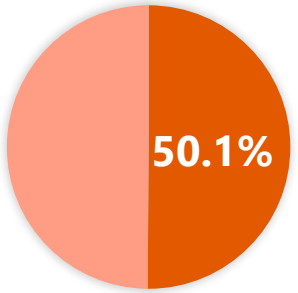
① いまだ満たされない大きな医療ニーズ（アンメットニーズ）

一生のうち、がんになる確率

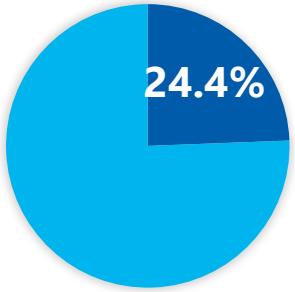
【男性】

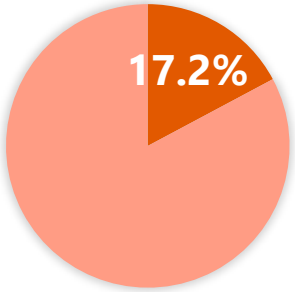


【女性】



がんで死亡する確率





② 継続的な研究開発が求められる重要領域

順位	治療領域	2029年 市場規模予測	年平均成長率（2025–2029年）
1	がん領域	66.2兆円	11～14%
2	免疫疾患領域	38.9兆円	6～9%
3	糖尿病領域	35.1兆円	4～7%
4	心臓血管領域	17.9兆円	2～5%
5	中枢神経領域	16.4兆円	6～9%
6	呼吸器領域	16.2兆円	3～6%

大きな医療ニーズを背景に、継続的な研究開発が求められている

出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がんの基礎知識」／IQVIA INSTITUTE, The Global Use of Medicines Outlook through 2029／当社公表資料・JAMA（2026）

ADCとは？

ADC：抗体薬物複合体
（Antibody Drug Conjugate の略）

抗体　薬物　複合体

標的となる細胞に
薬を届ける技術

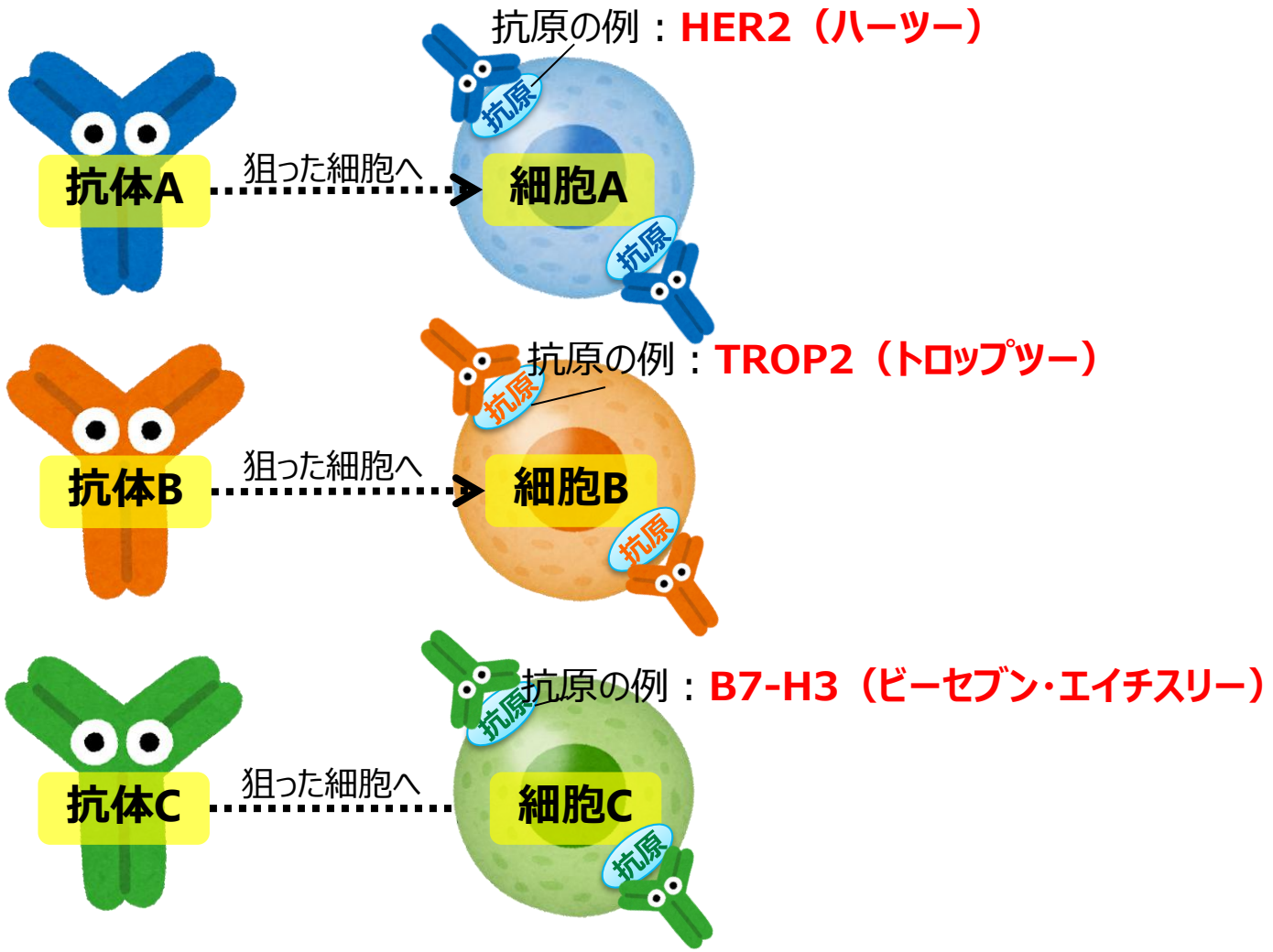
「ADC技術とは」 解説ムービー　検 索

今すぐ
スキャン



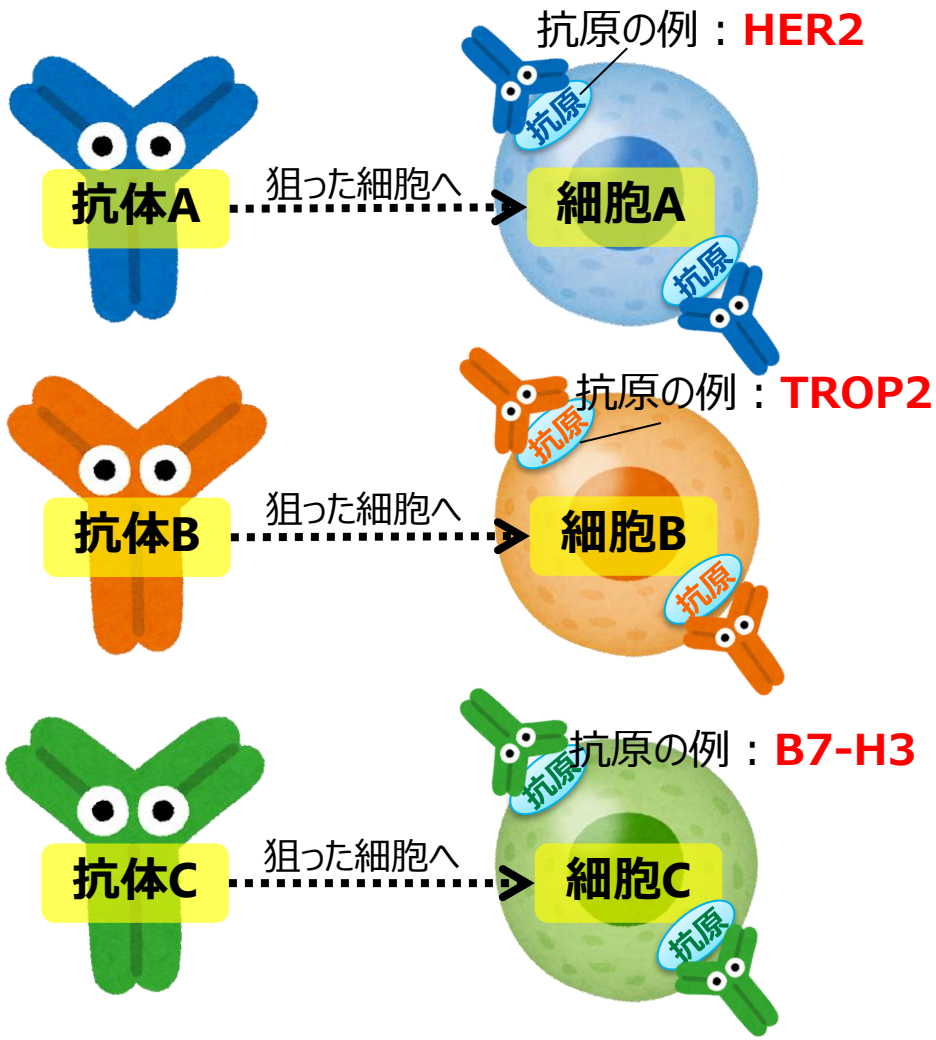
抗体は、「狙った細胞」をみつける案内役。

抗体は、それぞれ決まった**「抗原」**を
標的として結びつきます

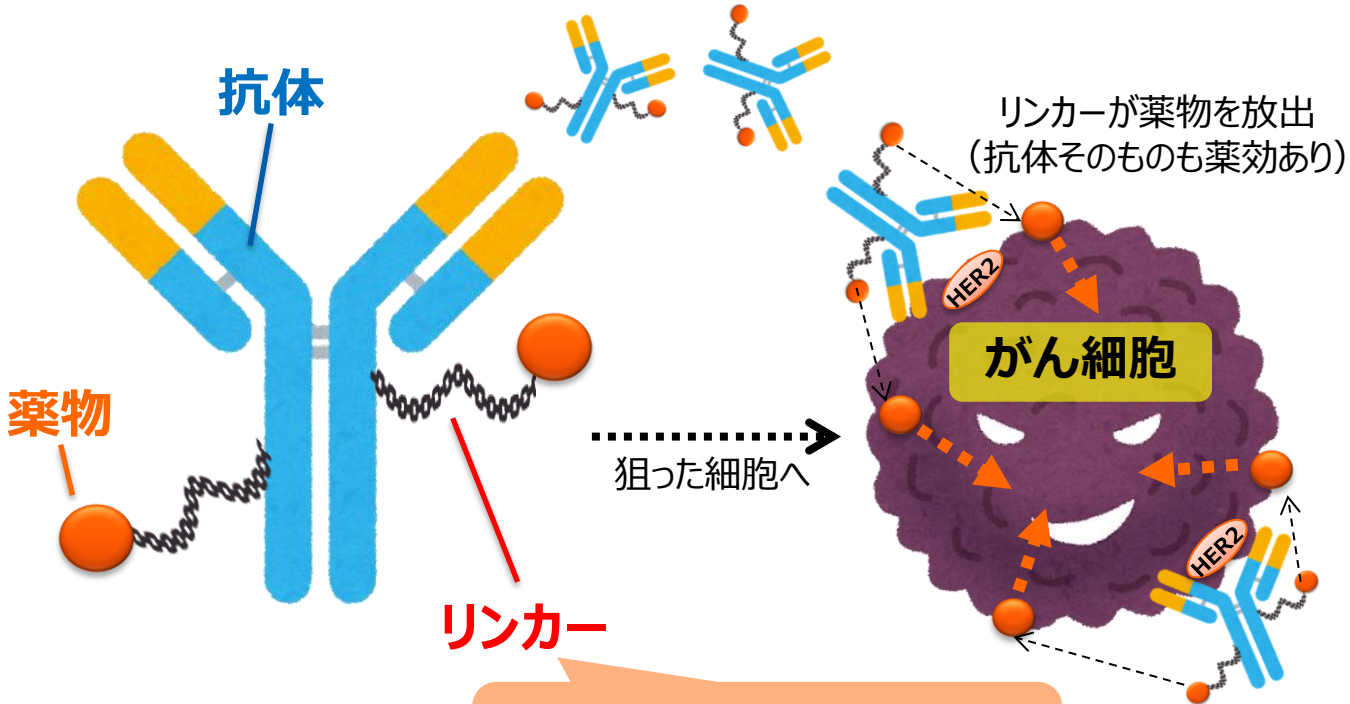


ADCは、「抗体」を活用して薬を届ける技術。

抗体は、それぞれ決まった**「抗原」**を
標的として結びつきます



ADCとは：
抗体が薬物を運び、がん細胞で放出する技術



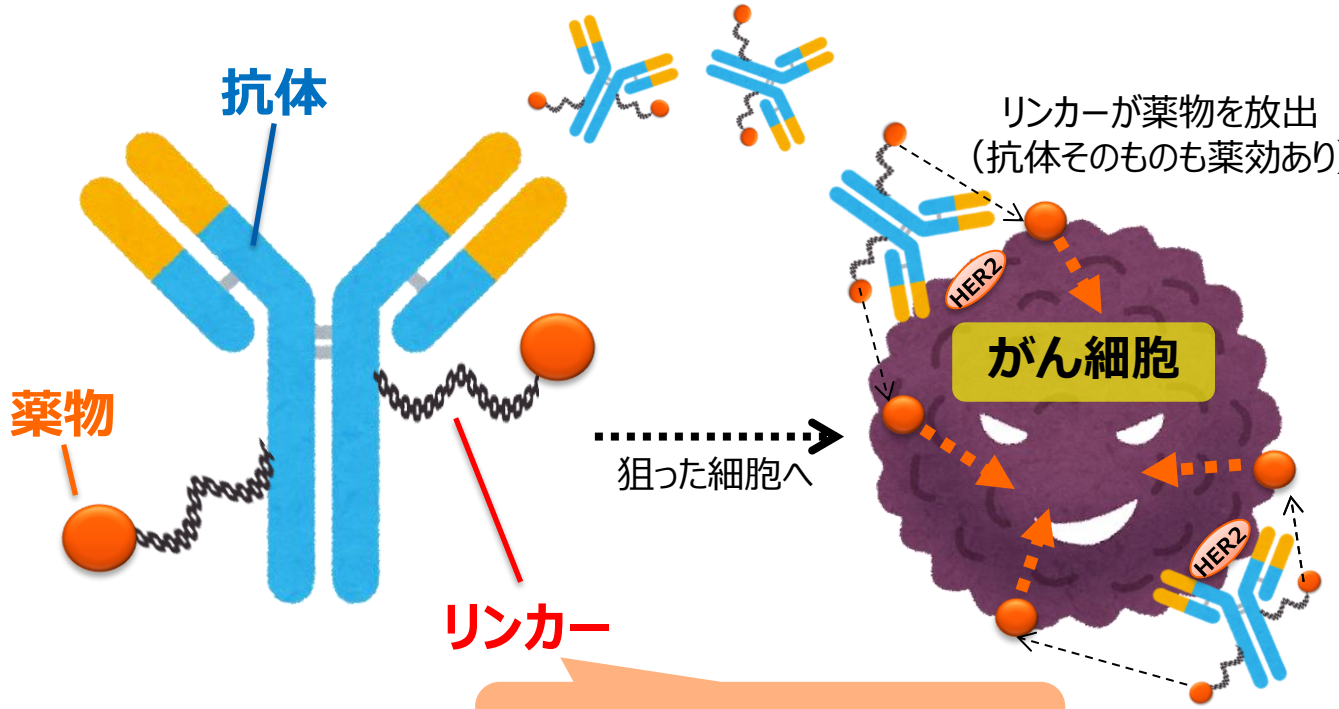
抗体と薬物をつなぎ、
がん細胞で薬物を放出する役割

有望なADCを、実際の医薬品にするには？

ADCは有望な技術。
どうすれば、患者さんに
届けられる薬になるの？



ADCとは：
抗体が薬物を運び、がん細胞で放出する技術



抗体と薬物をつなぎ、
がん細胞で薬物を放出する役割

従来のADCには、効果と安全性を両立する難しさがありました

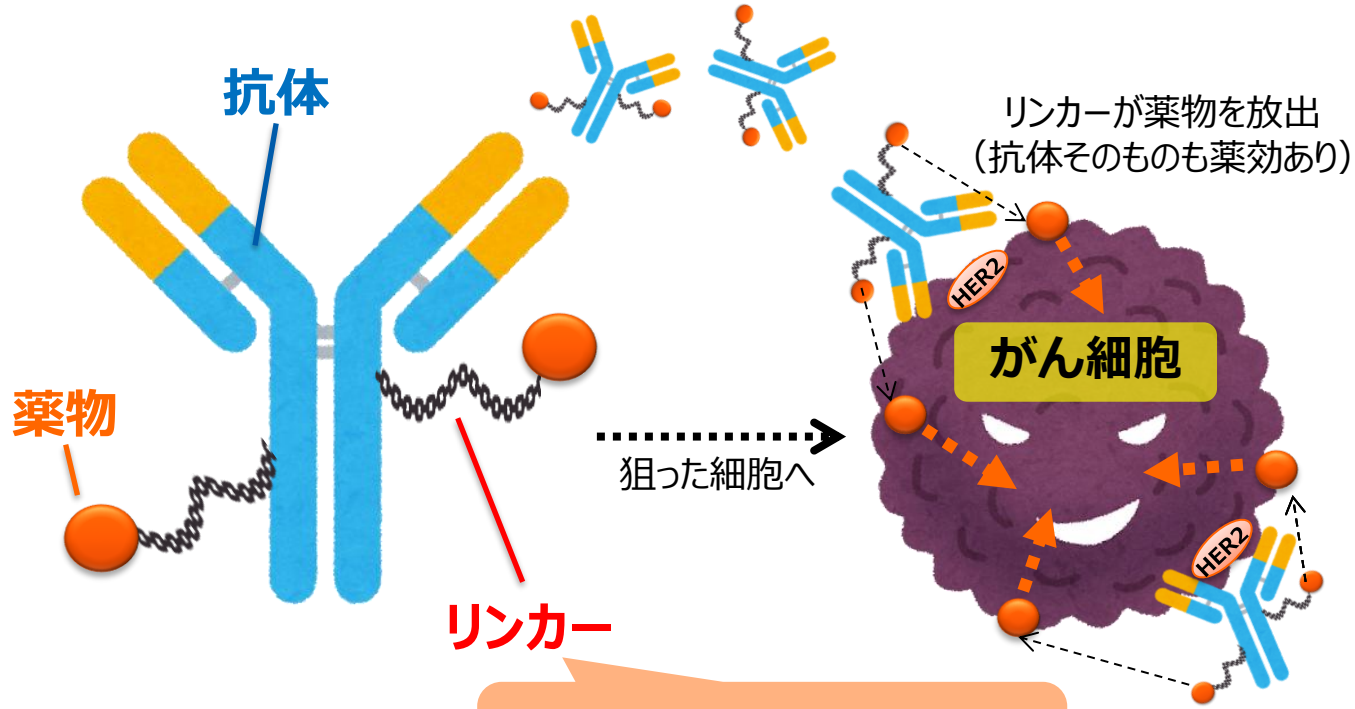
複数の技術課題が、ADCの製品化を難しくしていました

【主なADC技術課題】

1. **薬物の選択肢**
   - ADCに適した薬物が少ない
2. **抗体への薬物搭載数と製剤の安定性**
   - 薬物数を均一にすることが難しい
   - 薬物を多く載せると製剤が不安定になる
3. **リンカーの安定性**
   - 血液中で薬物が外れてしまうことにより、効果低下や副作用につながる

効果と安全性を両立し、製品化するには高い技術力が必要

ADCとは：
抗体が薬物を運び、がん細胞で放出する技術

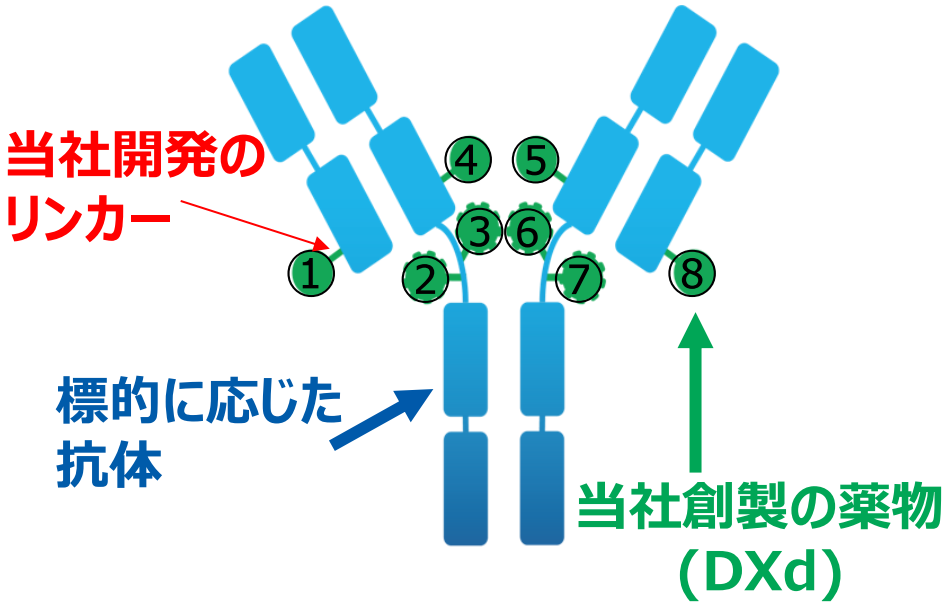


抗体と薬物をつなぎ、
がん細胞で薬物を放出する役割

従来の課題に挑んだ、当社独自の「DXd ADC」

当社創製の薬物「DXd」と、独自のリンカー技術により、従来ADCの課題の克服に取り組みました

（ディー・エックス・ディー　ADC）
DXd ADC



【DXd ADCを支える3つの独自技術】

① 当社創製の薬物「DXd」

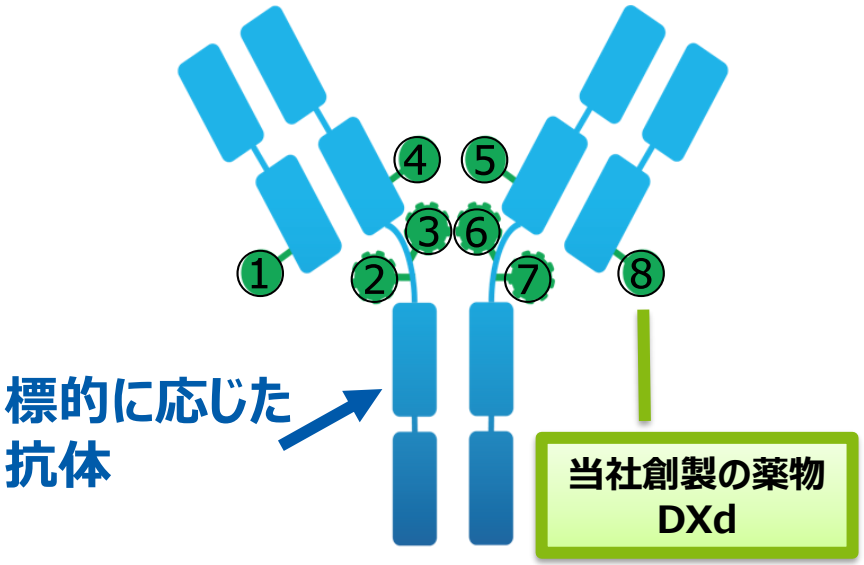
② 高い薬物搭載数と製剤の安定性

③ 当社独自のリンカー技術

当社創製の薬物「DXd」による強い作用と、最大8個の薬物搭載

ADCに適した薬物「DXd」を独自に創製し、1つの抗体に最大8個を搭載できます

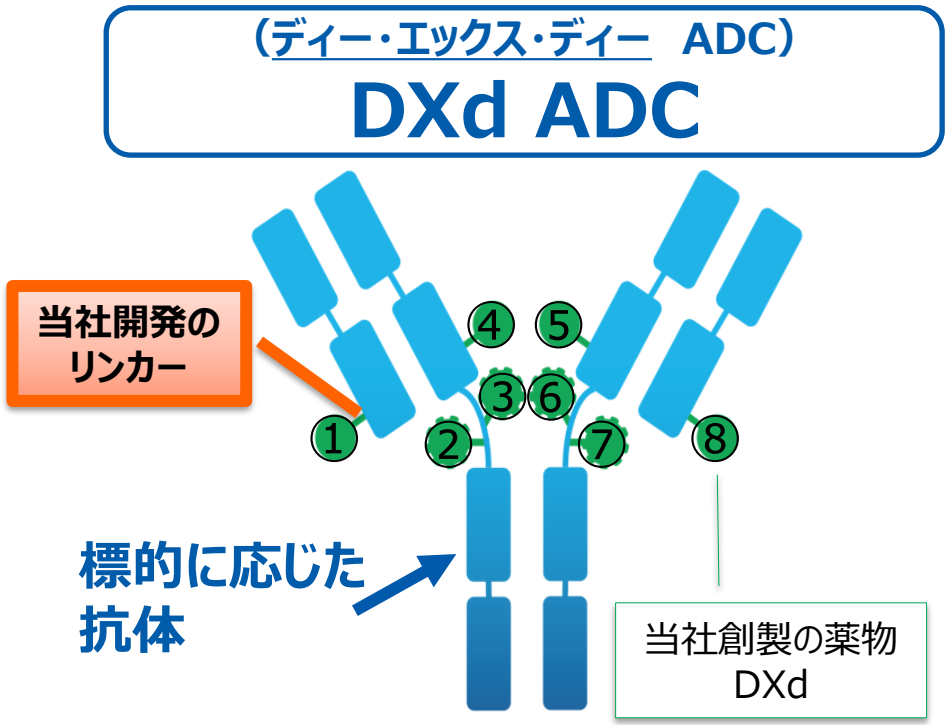
（ディー・エックス・ディー　ADC）
DXd ADC



- がん細胞へ強く作用するDXd
- 1つの抗体に最大8個のDXdを搭載

当社独自の「リンカー」が実現した保持と放出

独自のリンカー技術により、血液中での「保持」と、がん細胞での「放出」を両立



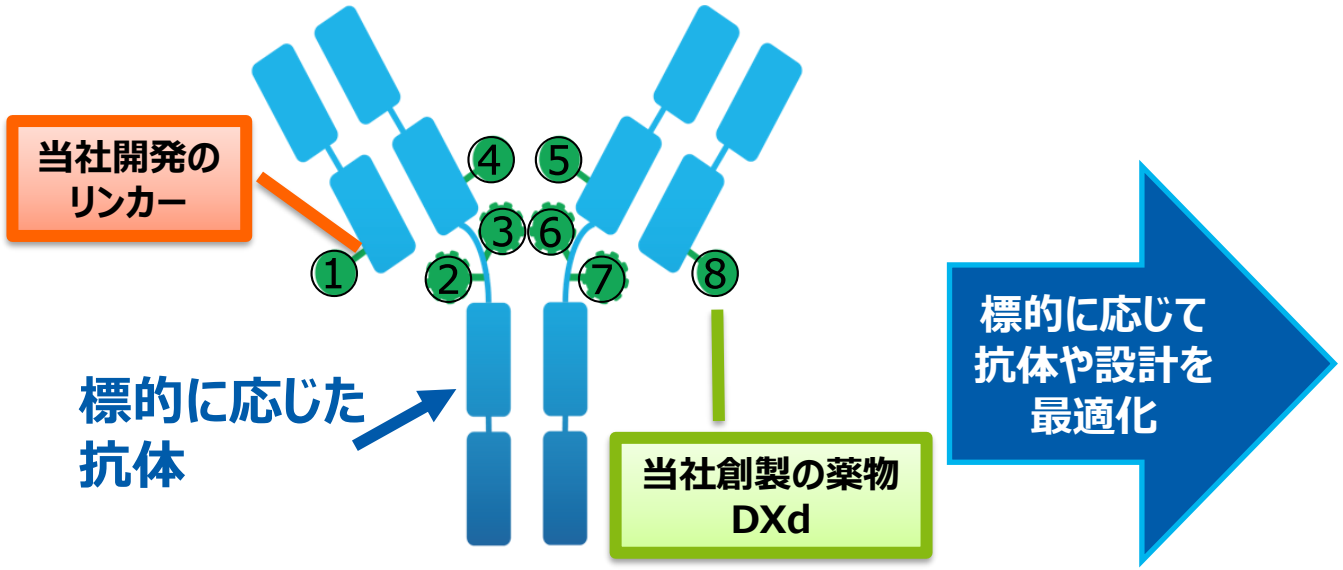
- がん細胞へ強く作用するDXd
- 1つの抗体に最大8個のDXdを搭載

- **標的にたどり着くまでDXdを保持**
- **標的（がん細胞）でDXdを放出**

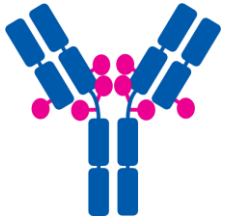
DXd ADC技術から誕生した初めての製品「エンハーツ®」

DXd ADC技術を、HER2を標的とする抗体を組み合わせて初めて実用化した製品がエンハーツ®です

（ディー・エックス・ディー　ADC）
DXd ADC



標的に応じて
抗体や設計を
最適化



HER2（ハーツー）を標的とする抗体

エンハーツ®　承認済み製品

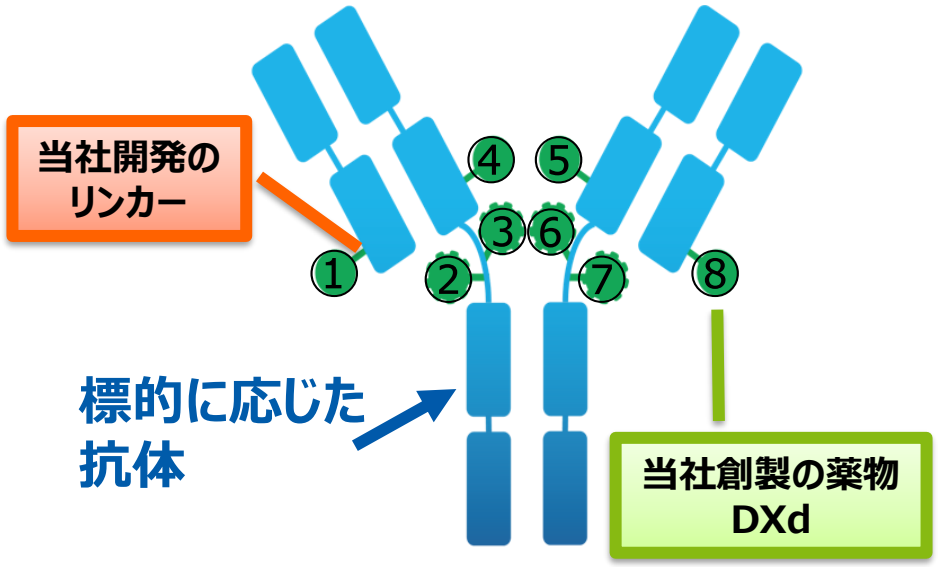
（一般名：トラスツズマブ デルクステカン）

抗体の名前

DXd ADCは、次々と新薬を生み出す創薬プラットフォーム

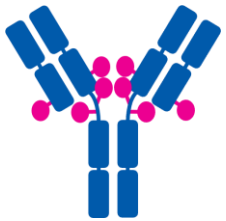
エンハーツで実証したDXd ADC技術を、異なる標的へ展開することで新たな製品を創出

（ディー・エックス・ディー　ADC）
DXd ADC

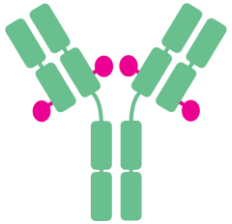


標的に応じて
抗体や設計を
最適化

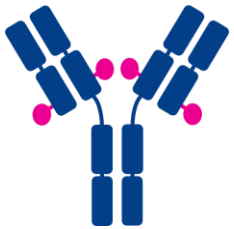
【DXd ADC技術から広がる製品群（一部）】



HER2(ハーツー)を標的とする抗体
エンハーツ®　承認済み製品
（一般名：トラスツズマブ デルクステカン）
抗体の名前



TROP2(トロップツー)を標的とする抗体
ダトロウェイ®　承認済み製品
（一般名：ダトポタマブ デルクステカン）
抗体の名前



B7-H3(ビーセブン・エイチスリー)を標的とする抗体
I-DXd　開発中
（一般名：イフィナタマブ デルクステカン）
抗体の名前

エンハーツ®から広がる、7つのDXd ADC

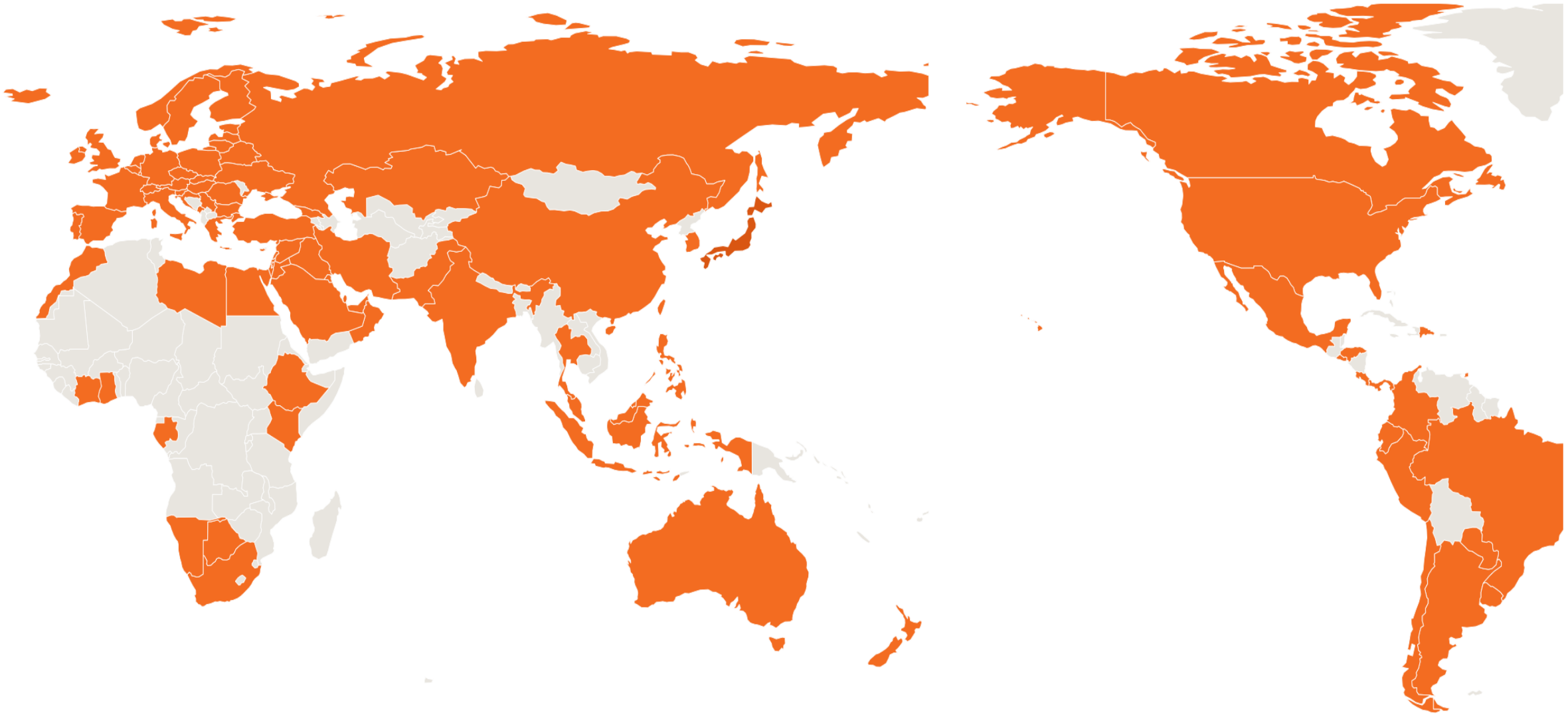
エンハーツで実証したDXd ADC技術を、異なる抗体・標的へ展開しています

製品名・開発品	一般名	標的（抗原）	グローバル開発状況
エンハーツ®（T-DXd）	トラスツズマブ デルクステカン	HER2	101カ国・地域以上で承認
ダトロウェイ®（Dato-DXd）	ダトポタマブ デルクステカン	TROP2	46カ国・地域以上で承認
I-DXd	イフィナタマブ デルクステカン	B7-H3	開発中
R-DXd	ラルドタツグ デルクステカン	CDH6	開発中
HER3-DXd	パトリツマブ デルクステカン	HER3	開発中
DS-3939	一般名未設定（開発コード）	TA-MUC1	開発中
DS3790	一般名未設定（開発コード）	CD37	開発中

※ 承認国・地域数および開発ステージは2026年7月時点。開発品は承認されておらず、有効性・安全性は確立していません。

【問題③】
何を示した地図でしょうか？

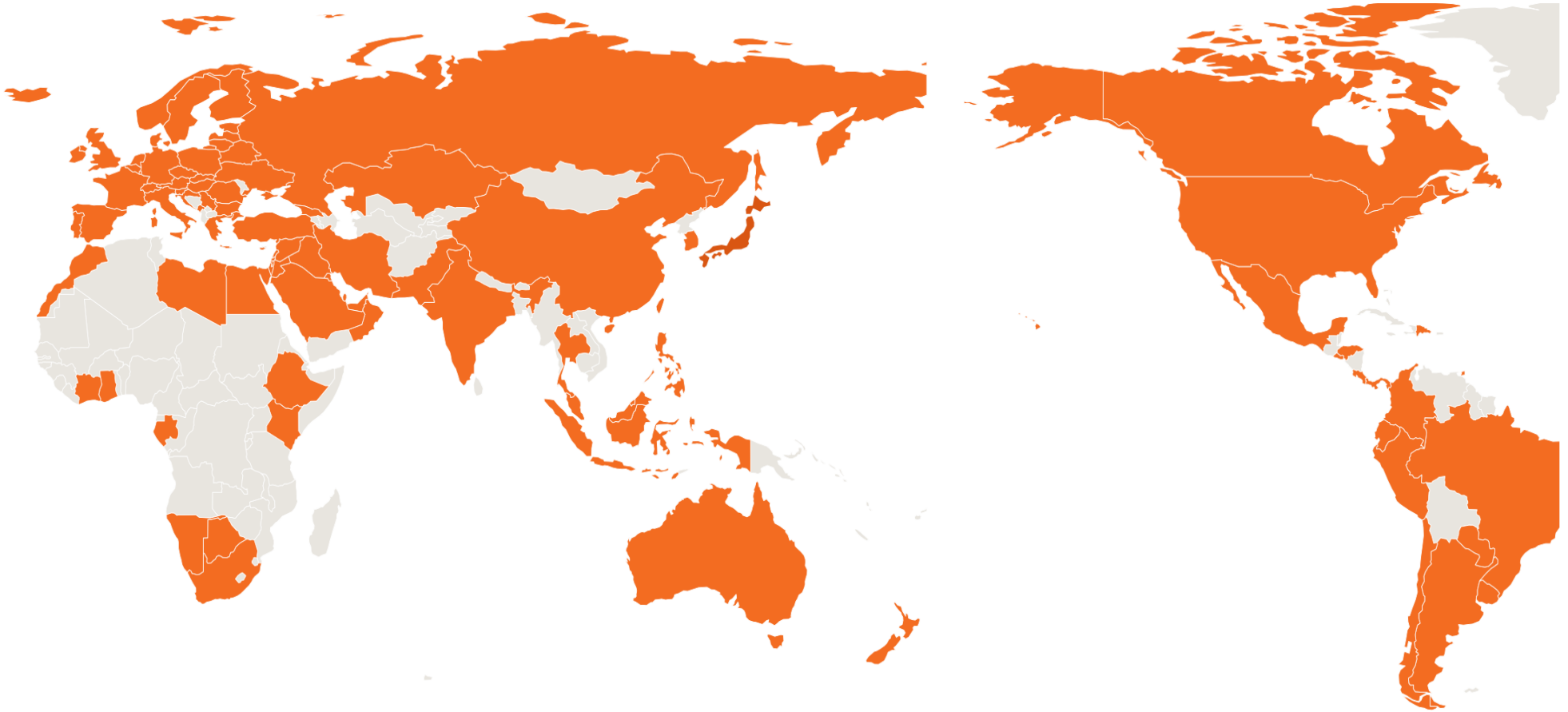
オレンジ色の国・地域は何を示しているでしょうか？



出典：2026年7月時点の社内資料

【答え】DXd ADCの代表製品「エンハーツ」の承認国・地域

日本で生まれた技術から創製されたがん治療薬が世界101カ国・地域以上で承認されています



承認済みの国・地域

承認済みの国・地域
101 カ国以上

延べ承認数（全適応症）
511 件

※ 承認国数はENHERTU® Approval Lists（DESTINY-Breast03・2026年7月時点）に基づく。地図は概念図（一部の小規模国・地域は非表示）。

患者さんへの広がりとともに、エンハーツ®も成長

適応拡大を通じて、発売以来売上収益が拡大

ENHERTU® trastuzumab deruxtecan

Daiichi-Sankyo

DXd ADC技術を用いたHER2*1抗原を標的とするADC（抗HER2 ADC）



取得適応症

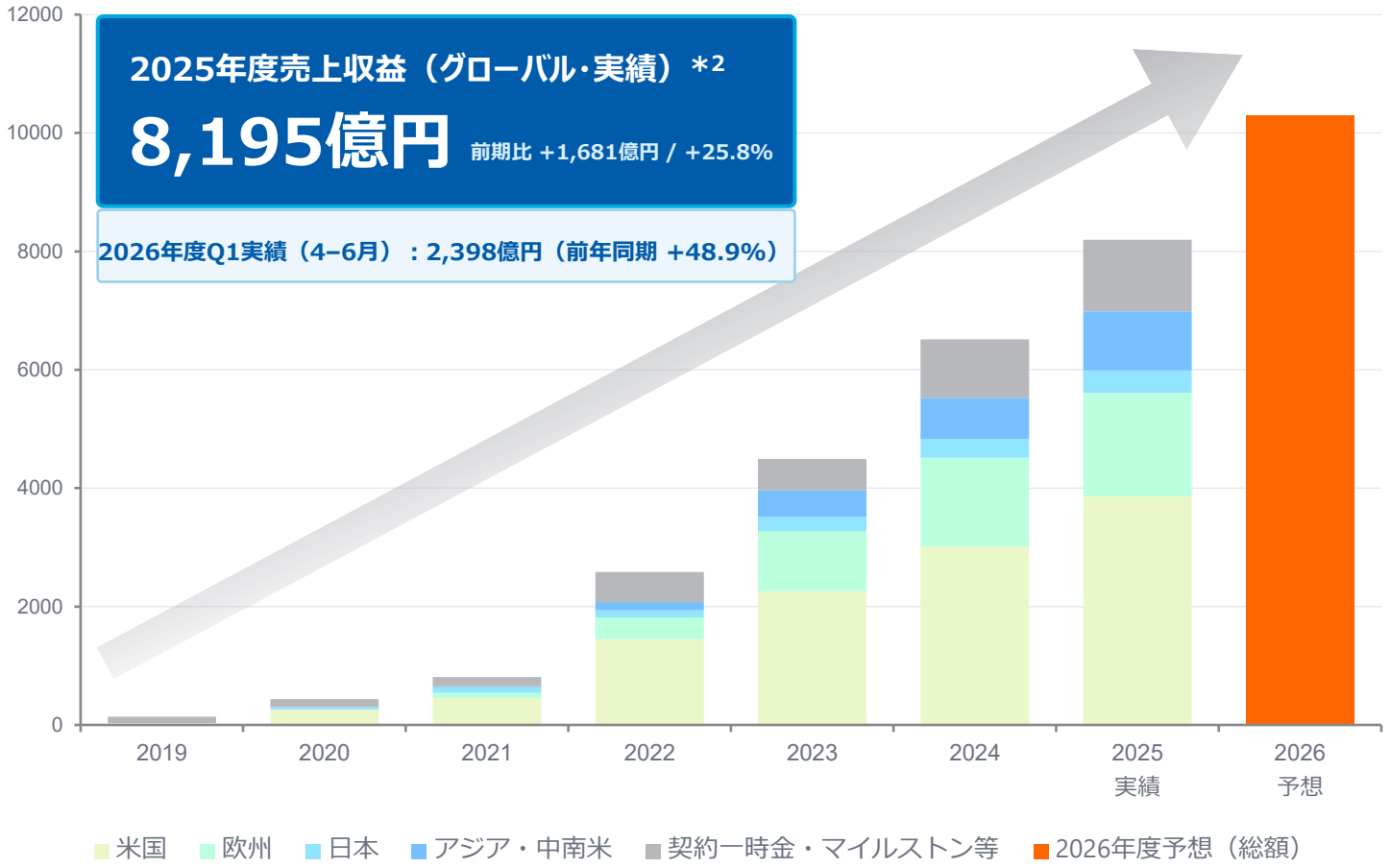
- 乳がん
- 胃がん
- 肺がん
- その他固形がん

承認国・地域

101カ国・地域以上

（2026年7月現在）

売上収益の推移（地域別、単位：億円）



※グレー部分「契約一時金・マイルストン等」はアストラゼネカとの契約に基づく一時金・開発／販売マイルストン収入（製品の実売上とは別建て）

出典：2025年度有価証券報告書、FY2026Q1決算短信・決算説明資料・補足データ（2026年7月31日公表）

*1 HER2：ヒト上皮成長因子受容体2型

*2 売上収益＝製品売上（実際の医薬品販売）＋契約一時金・開発／販売マイルストン収入等
（2026年度予想は地域別内訳非開示のため総額表示）

エンハーツ®に対する外部からの評価

第6回日本医療研究開発大賞*において「内閣総理大臣賞」を受賞





- 当社が独自の「DXd ADC」を開発し、エンハーツ®を創製したこと、さらに、この技術を活用した複数の新たながん治療薬候補の開発を進めていることが評価されました。
- 表彰式は2023年8月23日に首相官邸にて開催され、岸田首相より授与されました。

*日本医療研究開発大賞は、日本のみならず世界の医療の発展に向けて医療分野の研究開発の推進に多大な貢献をした功績を称えるもので、2017年度より表彰が行われており、中でも内閣総理大臣賞は極めて顕著な功績が認められる事例１件に対して授与される

外部からのDXd ADC技術の評価（米国ガリアン賞）

ENHERTU® trastuzumab deruxtecan

Daiichi-Sankyo

◆ **2024年11月、当社独自のDXd ADC技術を用いたエンハーツ®が、ベストバイオテクノロジー製品として、製薬分野におけるノーベル賞とも言われる米国ガリアン賞を受賞**





ENHERTU®
Daiichi Sankyo
& AstraZeneca

BEST BIOTECHNOLOGY PRODUCT
PRIX GALIEN USA
WINNER 2024

新たな治療選択肢を、より多くの患者さんへ。

第一三共の成長戦略は？

「エンハーツ®の成功を、次の成長へ」

2035年ビジョン達成に向けて

がん領域で、世界トップ5へ。

2021-2025年度

第5期中計 達成

「がんに強みを持つ基盤を確立」

2026-2030年度

第6期中計 現在

「がん事業拡大フェーズ」

2035年

2035年ビジョン

がん領域で
世界トップ5へ

独自のDXd ADC技術を強みに、次の5年間で、がん事業をさらに世界へ広げます。

出典：当社決算補足資料、中期経営計画資料（2026年7月時点）

第6期中期経営計画：2030年度計数目標

売上収益	営業利益	EPS（1株あたりの利益）
3兆円 以上	**6,000億円** 以上	**260円** 以上

2030年度に向けた3つの柱

1

DXd ADCを、より多くの患者さんへ届ける

承認国・地域と対象となるがんの種類を広げる

2

DXd ADCに続く、新たな創薬技術を生み出す

次の成長を支える技術を継続的に見いだす

3

効率を高め、成長を支える利益を確保する

研究開発と将来の成長に投資できる基盤を強化

3つの柱で2030年、その先の成長を支えます

出典：第6期中期経営計画資料

4つのDXd ADCの適応拡大を、2兆3,000億円超の成長へ

エンハーツ®、ダトロウェイ®および後続のDXd ADCを、より多くのがん腫・治療機会へ広げます

第6期中計売上収益の源泉

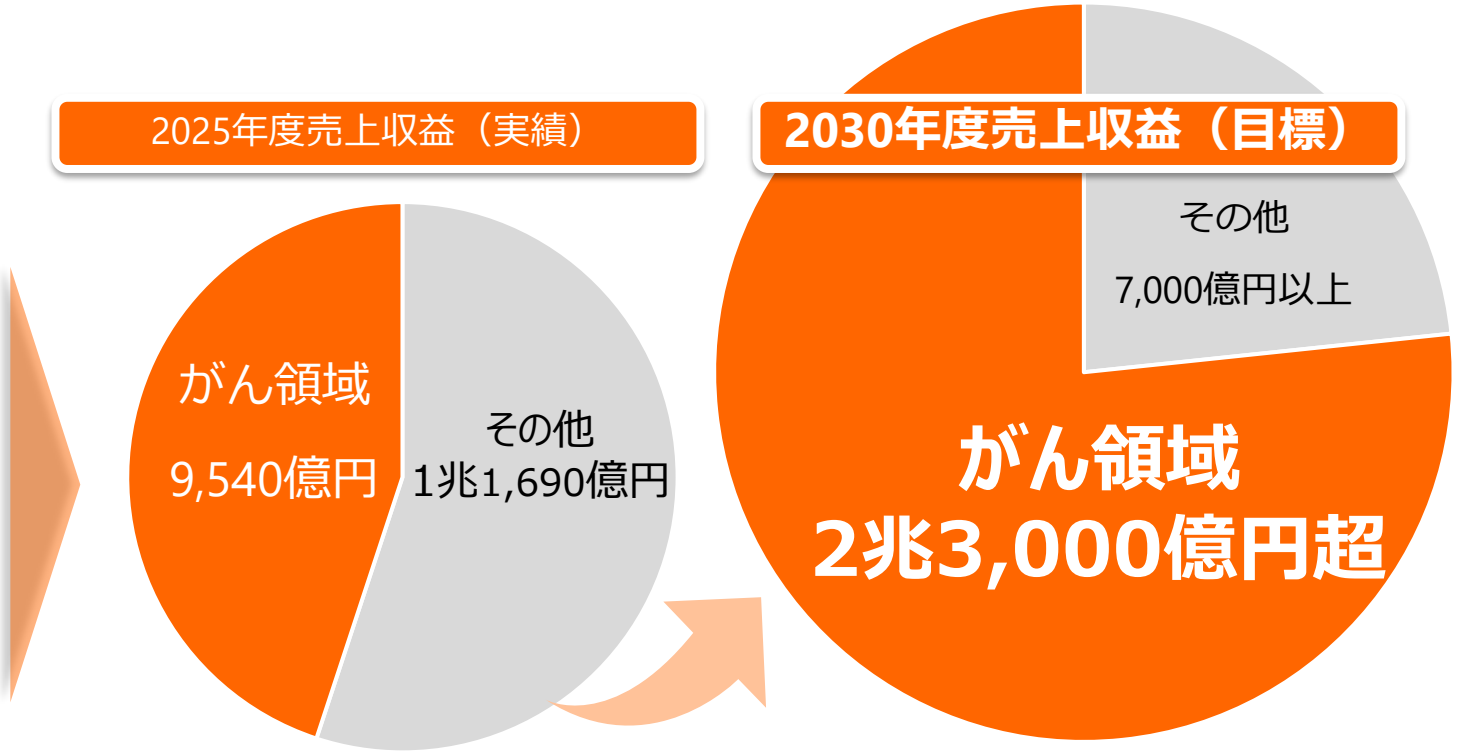
成長を牽引するDXd ADC

- エンハーツ®（トラスツズマブ デルクステカン）
- ダトロウェイ®（ダトポタマブ デルクステカン）

＋

後続のDXd ADC

- I-DXd（イフィナタナブ デルクステカン）
- R-DXd（ラルドタツグ デルクステカン）



4つのDXd ADCの適応拡大を、2兆3,000億円超の成長へ

エンハーツ®、ダトロウェイ®および後続のDXd ADCを、より多くのがん腫・治療機会へ広げます

第6期中計売上収益の源泉

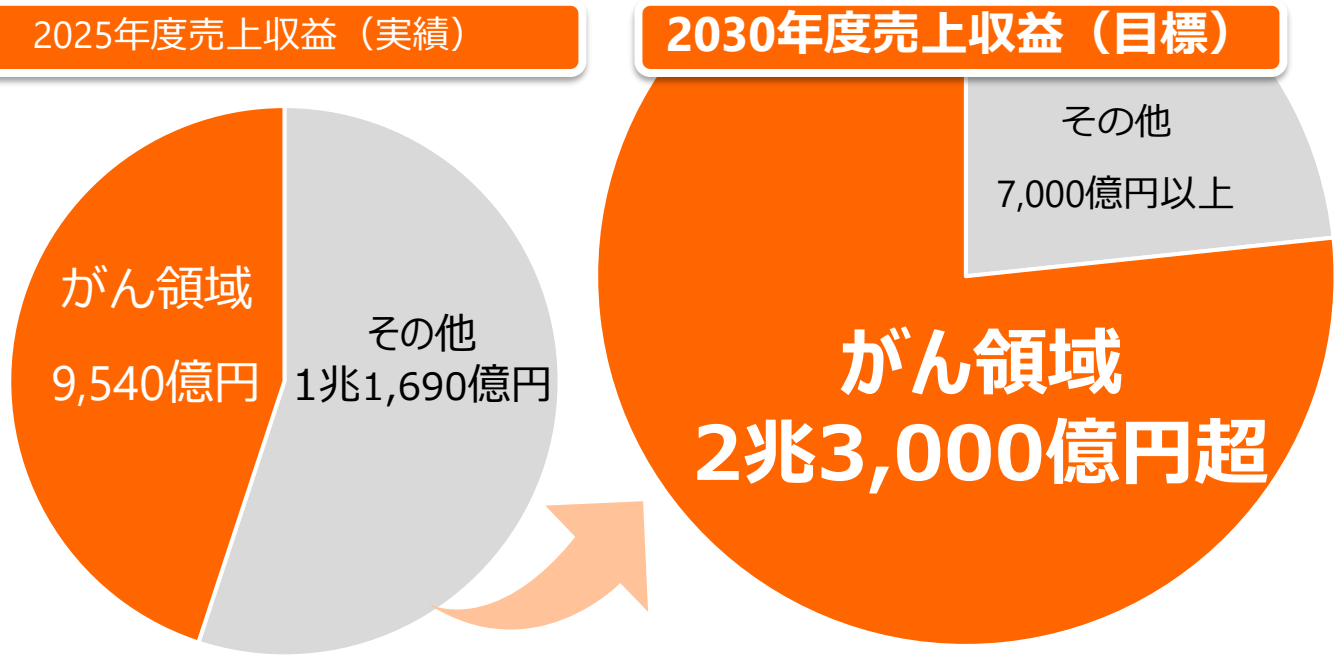
成長を牽引するDXd ADC

- エンハーツ®（トラスツズマブ デルクステカン）
- ダトロウェイ®（ダトポタマブ デルクステカン）

＋

後続のDXd ADC

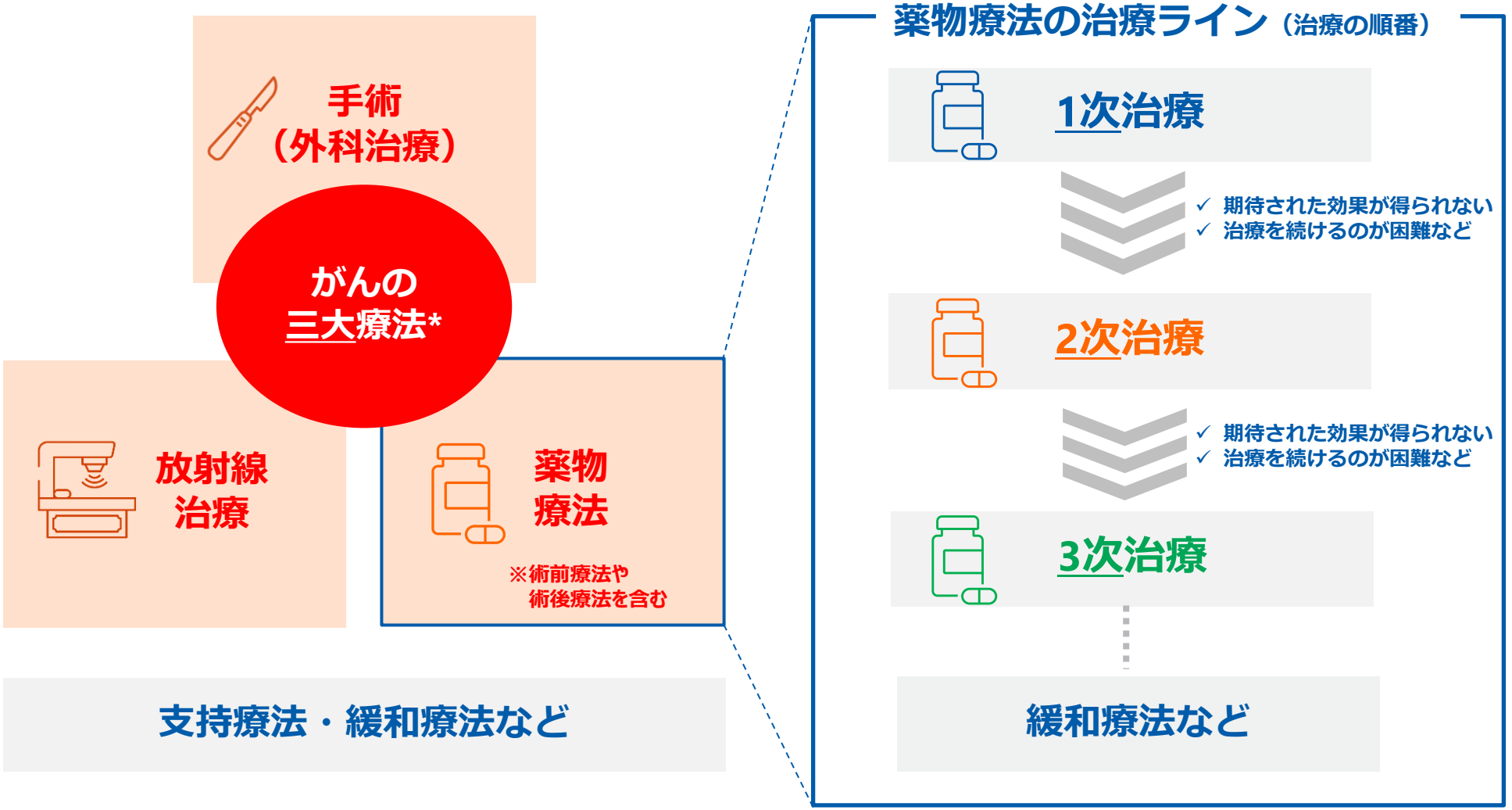
- I-DXd（イフィナタナブ デルクステカン）
- R-DXd（ラルドタツグ デルクステカン）



2030年までに20以上の主要データリードアウト*新たな適応症の拡大へ

※データリードアウト：臨床試験の結果がまとまり、公表されること

がんの治療は、患者さんの状態や治療段階に応じて異なります



出　典 ：国立がん研究センターがん情報サービス

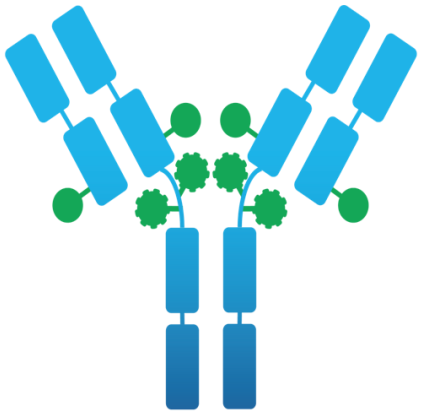
＊診断と治療：https://ganjoho.jp/public/dia_tre/index.html

DXd ADCの成功モデルを、次の創薬技術へ

次の成長を支えるBGTs候補を、より速く新薬へ

DXd ADCで実証した成功モデルを、次の独自技術へ広げます

最初のBGT
DXd ADCプラットフォーム



DXd ADCから広がる
新薬・開発品

エンハーツ®
（トラスツズマブ デルクステカン）

ダトロウェイ®
（ダトポタマブ デルクステカン）

I-DXd
（イフィナタナブ デルクステカン）

R-DXd
（ラルドタツグ デルクステカン）

HER3-DXd
（パトリツマブ デルクステカン）

DS-3939

DS-3790

当社では、この成長の核となる独自技術を「BGT」と呼んでいます

（BGT: Breakthrough Generating Technology）

次の成長を支えるBGTs候補を、より速く新薬へ

次世代ADCなどの独自技術と、グローバルな開発実行力を組み合わせ、次の成長の柱を育てます

＜次のBGTs候補（一部）＞

次世代ADC

薬の届け方と働きを、さらに進化

新しい抗体・薬物・リンカーなどを組み合わせ、
これまでにないADCを目指す

**細胞傷害性ADC／がん免疫ADC
／抗体改変型ADC**

複数の標的を狙う抗体

一つの薬で、複数の標的に働きかける

複数の標的に働きかけるように設計した抗体で、
新たな治療効果を目指す

マルチスペシフィック抗体

＜サイエンス（研究開発力）とテクノロジー（技術力）を、より速く新薬へ＞

1 **創薬の可能性を見極める**
可能性の高いBGT候補へ集中

2 **新薬の開発を速める**
研究・開発を並行して進める

3 **世界中の患者さんに届ける**
グローバル開発を強化

バイオマーカー・AIを研究開発の早期から活用

患者さんへの価値提供を、持続的な成長へ。

第一三共の株主還元は？

キャッシュ・アロケーション方針（2026-2030年度）：
成長投資と株主還元へのバランスを重視

原資		配分	
第6期中計期間中の研究開発費控除前営業CF 約3.85兆円 ＋ 資産売却／資金調達	成長投資	研究開発費	約2.9兆円
		設備投資	約7千億円
		戦略投資	2030年代中盤以降の持続的成長のための投資
	株主還元	配当	• 累進配当 • 調整後DOE* ＞10.0%（毎年度）
		自己株式取得	成長投資および累進配当の株主還元方針を優先し、状況に応じ機動的な取得を検討

*株主資本から「その他の資本の構成要素（主に株価・為替により変動する項目）」を除いた「調整後株主資本」をもとに算出したDOE。

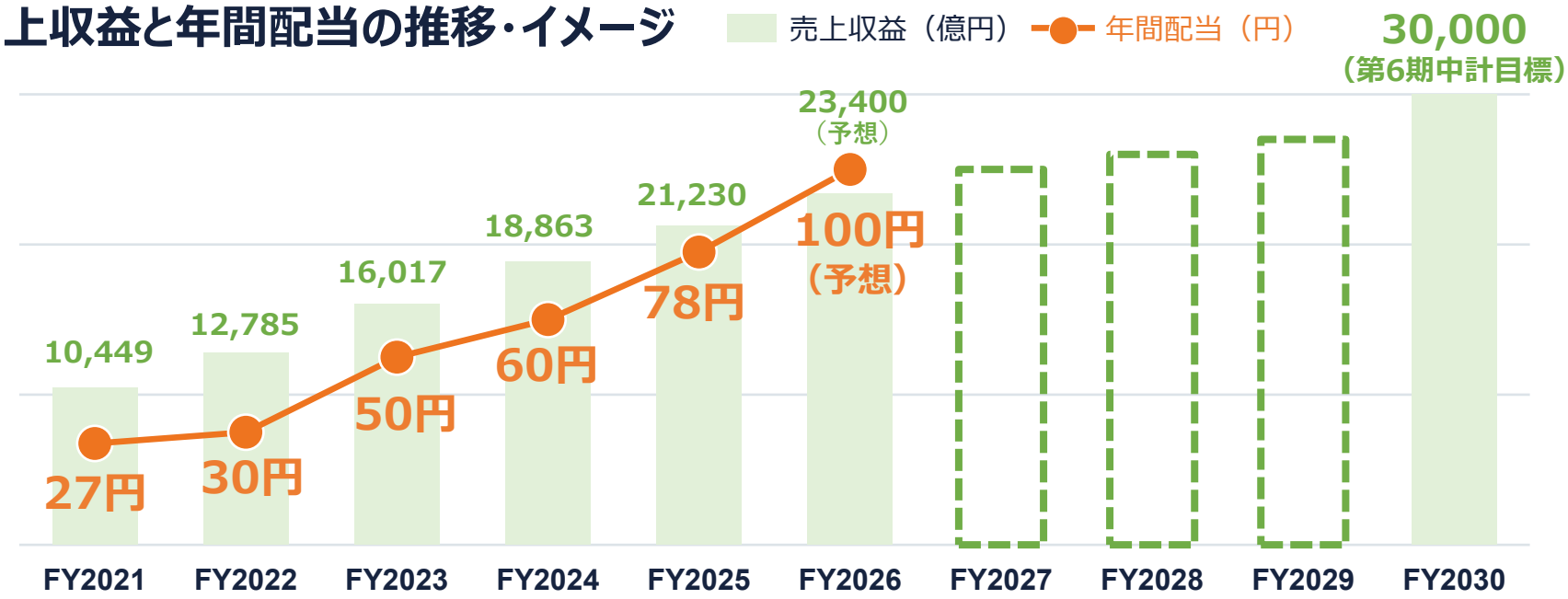
第6期中計の株主還元方針

売上収益の成長を、成長投資と安定的・継続的な株主還元につなげます

◆ **累進配当**（配当の維持、または増配していく方針）

◆ **調整後DOE10.0%以上（毎年度）**
株主資本を基準に、安定的な配当を行うための指標

売上収益と年間配当の推移・イメージ



※2026年度の年間配当は100円予想。2027年度以降の配当額は未定のため表示していません。売上収益と配当は機械的に連動するものではありません。
※売上収益：2021～2025年度は実績、2026年度以降は中期経営計画上の数値。

出典：第6期中期経営計画資料、決算説明資料




第一三共グループは世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献してまいります